よってくだん ひめじ
まち案内マップ
よーこそひめじ！ えーとこあるよ！

江戸の時代の城下町を思い浮かべながら、姫路の町をお散歩。

姫路城中濠と門跡めぐり

姫路駅はかつての外濠があった場所。つまり姫路駅から天守閣までのいまの町並はすべて「城内」なのです。そのエリアを門跡をめぐって歩いてみてください。

所要時間 30 分

①中ノ門の想像図

②国道２号線

③中ノ門の石垣

②かつての中濠

②国道二号線竣工の碑

③石垣跡の鉄平石

④鵤門想像図

④鵤門跡

⑤埋門想像図

⑤車門想像図

④鵤門跡

⑦石垣に設けられた石段（合坂）

⑧千姫の小径

⑤車門跡

⑧排水溝の遺構

START ここから **姫路駅**

12 分 → 670 m

❶ 中ノ門跡

1 分 → 60 m

❷ 国道二号線

1 分 → 40 m

❸ 中ノ門の石垣

3 分 → 170 m

❹ 鵤門跡（くまたか）

4 分 → 230 m

❺ 埋門跡（うずみ）

3 分 → 190 m

❻ 車門跡

1 分 → 30 m

❼ 合坂（あいさか）

2 分 → 130 m

❽ 千姫の小径

GOAL

12 分 → 660 m

姫路城

28 分 → 1500 m

ここまで **姫路駅**

所要時間：約 30 分（見学時間含まず）

発行：姫路観光コンベンションビューロー魅力発掘ワーキングチーム TEL 079-287-3655

よってくだん ひめじ
まち案内マップ
よーこそひめじ！ えーとこあるよ！

江戸の時代の城下町を思い浮かべながら、姫路の町をお散歩。

姫路城中濠と門跡めぐり

姫路駅はかつての外濠があった場所。つまり姫路駅から天守閣までのいまの町並はすべて「城内」なのです。そのエリアを門跡をめぐって歩いてみてください。

所要時間 30分

1 中ノ門跡

中ノ門は、**飾磨津門から城内に入る正門**で大手門と記す古地図もあります。伝承によれば中ノ門は外門と内門からなる**枡形門**でその偉容は西国街道を行き来する旅人を威圧したといいます。（案内板あり）

2 国道二号線

現在の国道二号線は**中濠を埋めて建設**されました。昭和のはじめには、まだ濠があり蓮の花が美しかったと伝えられ、石垣沿いには国道二号線**竣工の碑**も立っています。ちなみに国道沿いに打たれた石垣は近年のもので、中濠沿いでは門の付近にしか石垣はなく、本来は**土塁が掻かれて**いました。

3 中ノ門の石垣

中ノ門の石垣は大正時代のはじめの濠の埋め立ての際に取り壊され、現在はほんの一部しか残っていません。しかしその概容から江戸時代、ここにそびえたっていた**巨大な櫓門の姿**を想像することができます。ちなみに歩道上に埋められた**黒い鉄平石**は、後の調査によって発掘された**石垣の跡**を示しています。

4 鵰門跡（くまたか） みる！

鵰門はめずらしい**枡形門**といわれる形状で、中曲輪（なかくるわ）に設けられた十一門のうち**もっとも遺構が残っており**、往時の姿を想像することができます。
石垣の上には**かつて櫓門がそびえ立ち**、外門を越えて攻め込む敵を狙いすましていたことでしょう。外門を破り勢いづいた敵もこの櫓門に侵入を阻まれ、三方から打ち込まれる矢玉になす術はありませんでした。

5 埋門跡（うずみ） みる！

埋門も小型の**枡形門**で、石垣上に築かれた**二層の櫓**が特徴。西から川や濠を越えた敵に備えています。**この門は姫路城の裏鬼門**にあたることから平時は閉じられたままで、「埋門」の名も今は埋められた門であると鬼を偽る狙いがあったといいます。

6 車門跡

車門は**西国街道に面し**、ここから**建築資材などを運び入れた**ことからこの名があるといい、またこの門には船場川から直接、船を入れるための扉も備えられていたようです。
西国街道に面していることから**最も敵の攻撃を受けやすい門**で戦闘時には門前の木橋を落とし守りを固めたものと思われます。門の形状も**二重の枡形**を有するめずらしいものです。

7 合坂（あいさか）

石垣につけられた**階段を城郭では「坂」と称し**、石垣に設けられた石段を「合坂」といいます。その近くには狭い「雁木（がんぎ）」と呼ばれる石段もあります。

8 千姫の小径 とる！

車門の内側から北へのびる小径は「千姫の小径」と名付けられ、地元の人たちの朝の散歩コースで、**春には隠れた桜の名所**となります。
ここからは、めずらしい**排水溝の遺構**を見ることができます。城郭建築で大切なのは雨水や生活用水の処理で、こうした遺構に江戸時代の人々の智恵を垣間見ることができます。

もちょっとお勉強。

参考文献：姫路ぶらぶらガイドブック／姫路ええとこマップ（姫路円卓会議発行 2009.9）諸門の想像図（多田初治画）

枡形門とは

姫路城は内濠・中濠・外濠の三重の濠で守られており、内濠内には城主の屋敷や天守、中濠内には武家町、外濠内には町人町や寺社・下級武士の長屋などが置かれていました。今回、ご紹介した中濠には全部で十一の門があり、この十一口を組み合わせると「吉」に転じるとの意味あいがあるといいます。なかでも南面に設けられた五つの門は、西国街道を守る重要な門となります。そのためこれらの門のうち四門は内門と外門という二重の門によって守られており、こうした門は「枡形門」と呼ばれます。
枡形とは門と門の間に設けられた小さな四角い広場のことで、ここに侵入した敵は逃げ場を失い内門の櫓をはじめ、四方八方から攻撃を受ける究極の門なのですが、姫路城内に現存する諸門に枡形門はありません。また弓は左向き半身で構えるため左側の敵の方が攻撃しやすいため、ほとんどの枡形門は右折れとなっています。
ところが姫路城には右折れの枡形門は存在せず、鵰門のように折れていない枡形門すらあります。